

生野中学校区 学校再編整備計画（案）説明会 質疑応答議事録

1 日 時 平成 30 年 9 月 24 日（月）午後 3 時～午後 4 時 30 分

2 場 所 生野中学校 多目的室

3 参加者 25 名（大人 23 名、子ども 2 名）

4 出席者（事務局）

【教育委員会】川阪学事担当部長、川本教育政策課長、大川学校適正配置担当課長、
樋口首席指導主事

【生 野 区】山口生野区長、深見生野区副区長、井平地域活性化担当課長

5 質疑応答議事要旨

（質問者 A）

初めに質問で、後ほど意見を述べたいと思ってますけれども。

学校統廃合の状況の中で、浪速区の平成 26 年塩草立葉小の話があったんですけども、これは今かなり生徒数が増えてこの学校の敷地内に校舎を建てるというような状況になったというふうに聞いたけど、その状況いかがでしょうか。それから設置協議会というのは、先ほどもありましたけれども、開校時期、校名、こういったことを決めるということがこの目的ということで、何月に予定されているのか。

（川阪学事担当部長）

資料を持ち合わせてないんですが、今ご質問で塩草立葉の話ですけども、今いてます子どもたちがきちんと教育環境を守る教室を確保するために、敷地内に増築工事をしております。

当然ですけども、敷地内に建てますので運動場面積がさらに小さくなりますので、すぐ近くにありました元難波特別支援学校ございまして、そこを第二グラウンドとして、利用するという計画で現在進んでいるというふうに聞いております。

（質問者 A）

何名増える見込みで、どれぐらいの教室数。

（川阪学事担当部長）

今正確な数字が出ませんので申し訳ございません。また改めてご報告させていただきたいと思います。

（質問者 A）

かなり増えてくると聞いているので、またあとで報告してください。

（川阪学事担当部長）

はい。わかりました。

【追加回答】

平成 29 年 5 月時点で、塩草立葉小学校では 11 学級 301 名の児童が在籍しており、今後の児童推計では平成 35 年度には 15 学級 496 名に増加する見込みとなっているため、15 学級に対応可能な教室を確保するための校舎増築工事を計画しております。

(井平地域活性化担当課長)

学校設置協議会の設置でございますが、先ほど申しましたが、各地域まちづくり協議会各PTAの方をお願いに行きまして、10月から11月にかけて設置に向けて進めてまいります。

(質問者B)

先ほどから、小中一貫校の話をお聞きしてるが、小中一貫校、みんなわからないですよね。

小中一貫校を、今大阪のここの学校でやってます、見学会に行きませんかというふうなことをすれば小中一貫校っていうのはどういう学校やっていうのが目に見えてわかるけれども、やっぱり話を聞いて、「いい学校になるのかな」「悪い学校になるのかな」っていうのもまだあやふやで不詳なとこばかりなんです。

それから、小中一貫校やっているところが、こういうところで「今やってますよ、見てあげてください」という場所がね、募集していただいて、我々がもう見たかってね、あっち向いていだけだからこれからの子どもなんかを見てもらった方がいいんじゃないかなと思ったりする。

(井平地域活性化担当課長)

ご意見ありがとうございます。

一部そういった形でやったところもありますけども、今回そういうご意見をいただきましたので、大阪市でいえば、もうすでに小中一貫校を始めているところが先行でありますので、見学会っていいですか、できるのかどうかも含めてこれから検討しながら、できるように進めていきたいと思えます。ありがとうございます。

(質問者C)

今の質問に関連してなんですこれ、樋口首席にお伺いするのかなと思ったんですが。

大阪市初の義務教育学校であります。初っていうのは、今までと違うというふうに受け取ったけれども、先ほどのご質問で、今までである小中一貫校を見にいこやないかとおっしゃってそれはそれで非常にいいと思うんですけども、それと今回作ろうとされている初のっていうのは、どこがどう違うのかを教えてくださいませんか。

(樋口首席指導主事)

ありがとうございます。

小中一貫校と義務教育学校、似てる部分ではあるが、一番大きく違いますのは、小学校、中学校の両方の免許を持っている教員で構成される、ということです。

つまりは、6年生から7年生、通常でしたら小学校の先生が中学校に持ち上がるということはないわけですが、この義務教育学校はそれを可能にします。

ただ、それぞれの小学校から集まって一つの学校になっていくわけでありますので、いきなり今現在の小学校の先生方が、小中免許を両方持っているかということ、全員が持っているわけではありませんで、段階的に通常の転勤の際に、次入る先生は小中両方の免許を持っている先生が入って行って、最終的には小中両方の免許を持っている教員がそこに構成員として入っていくということです。それによって、できるメリットというのは、小学校中学校9年間の中で担当を決めていくことができますので、それを生かしていくような学校作

りを考えていきます。

したがって、今、現存する小中一貫校と大きく違うのかっていうとさして変わらないのですが、変わる部分と変わらない部分とあるということです。現在の小中一貫校も、施設一体型のところは、小学校段階からその子どもたち見ているので、同居している中でのメリットというのは生かすようにしております。

(質問者C)

勝手なイメージでとったんですけれども。この生野に、私立の学校もしここで作るならどうするんだと。要するに、4年生とそれからそれにくっつけた3年たす2年という新しい学校作りましょうと勝手にそういうふうに理解したんですけれども、それが聞きたかったんですよ。

今までの6・3年制とですね4・3・2という新しい仕組みをチャレンジしたいというふうな受け取り方をしたんですけれどそれは間違ってますか。

(樋口首席指導主事)

小中一貫校でのデメリットっていう部分で言いますと、中学生がいることでやさしや懂れが生まれる一方で、中学生と同居しているがために小学校6年生のリーダー性が育みにくいというのが実はデメリットとして報告されているところです。

そのため、4年3年2年という区切りを設けて初めの4年間で4年生をリーダーにしてとか、また、2分の1成人式をしてとかをしながら、しっかりその段階でのリーダー作りというものをしていこうじゃないか。

また最後の2年間というのは、それぞれの進路選択にしっかりと力を入れていくような特色のある学校作りをしていくというふうな意味合いもあります。また、途中の3年間というのは高学年段階から中学生を意識したプログラムを作ることができるという意味で、4年3年2年という区切り方という工夫もありではないかと提案しています。特に9年間を見据えて、学校を作っていく場合は、そういう区切り方というのが非常に効果があるという報告がありますので、それを活かした学校作りをしていきたいと考えております。

(質問者C)

何を言いたかったかというと、最初の1年生2年生のときはこれ1.5キロどないつづそうかというものすごい大きな課題があるわけですね。ところが、中学校行くようになると1.5キロぐらいそんなどちらでもいいでって話になってしまっただ距離の問題よりも、そういう学力向上のためのどうするかとか、いかに人間として成長させていくかっていう学校教育の入口のところの問題と、卒業と言いませんけれども、中学年高学年になったときの課題とは全然違うのでね。4・3・2という分け方は、非常に私は子育てのレベルからいうと、あえて小学校と中学校という二つの区切りをね、三つ分けることによって課題が明確になるのかな、そういう落とし込みをされてそれぞれに適した、なんだろう、戦略戦術が今回の新しい学校から提示されるとすると、地域といいますか、保護者さんもね、安心されるのかなと。そういう今までと違う切り口でもっと子どものために何ができるかっていうのを真剣に考えていきますというような御発言が先生からあったのかなと。そしたら早く、あなたを校長先生に示して、もっとビジョン詰めてくれよとこういうことがね。いやそれも3年間

だれが校長になんねん、どんなことをやってくれんねんと。サラリーマンですから次の校長は、着任1年前にしかわかりませんよと。そんなええかげんなことやったら子ども預けられるのってきつと言う人もあるかなと思いました。すいません。

(樋口首席指導主事)

貴重なご意見ありがとうございます。

しっかり煮詰めていきたいと思いますが、今おっしゃられた4年3年2年というのはそういう一面もございまして、子どもたちの発達段階に寄り添っていきたいという、ねらいもございまして。

(山口生野区長)

ご意見ありがとうございます。

補足的な話をしますと、これは、校長をやって特に学力面で感じてたことですが、4年生でだいぶ学力、すごく難しくなってきます。いつも思うのですが、1年生がピカピカで入ってきます。若干幼児教育の差というのもないわけではないけれども、やはりピカピカでやる気満々でキラキラの目が入ってきて、ちょっとずつ、なぜ学力に差がついてくるかっていうと、やはり2年生の九九が定着しなかったでありますとか、そういったところから3年生の学習と徐々に取りこぼしをしていきます。学校現場というのはそれをフォローするために一生懸命やってはいるけれども、特に5・6年になったときの学力の取りかえしの厳しさというところがあります。それが中1まで持ち越されますと、定期テストで点が取れないっていうことになってきます。定期テストはおのずと内申点に直結しますので、そういったところから私は塾の先生としてずっと思っていたことですが、やはり5・6年、中1というのは一緒に繋げて考えた方がここでの取りこぼしだけは絶対許してはいけないと思っています。

そういった4年生まででしっかり区切りをつけて、学力でありますとか子どもの発達段階に合わせてみる。5・6年を繋げて考える。そして、やはり受験ですので、中2中3というところは自分の進路選択に責任を持てるようにしたいと思っています。

ちょっと個人的な話ですけども私はずっと高校中退の問題に区長として、全市の課題にも関わっています。そのワーキングをやりますといつも問題になるのが、何で高校中退するのかと言ったら、好きで入学している学校じゃなかったり、そもそもモチベーションが低かったり、あとはもう入っても授業について行けないっていうことで、高1の段階でかなりの人数が中退してしまう学校があります。それをずっと深掘りしていきますと、中学校で「何で勉強できなくなるねん」じゃなくて、「そもそも小学校からの積み上げやろ」っていう話になるので、いかに本当に低学年からしっかり積み上げて子どもたちが、なんか自分が行きたい進路が選べる学校には絶対しなければならないと思っています。そのときにこの4・3・2という考え方を最大限に生かして、できたらというふうに思っておりますのでそれはもう誰が校長だろうと必ず一緒に作っていこうというふうに思っております。

(質問者D)

前から言ってるこの「案」はいつ消えるんですかっていうのと、今言っていた4・3・2ですけど、中学校小学校と両方とも免許持ってる人数の割合っていうかね。そしたら、5年生6年生、6年生の担任がそれを持ってるのか、中学校1年7年生の担任がそれを持ってる

のかっていうそのパーセンテージっていうかね。両方とも持つてゐる必要はないと思うんですけど、小学校は小学校教員でしっかりやっではるし中学は中学教員でしっかりやっではるんやけど、両方持つてゐるからっていうて、両方をまたいでやっでいい面もあるやろうし、その分野分野によってはそうじゃない面もあると思うんで。

それとここに書いてあるように、学級担任制から教科担任制に移るのが本当に5年生とか6年生、6年生、中学校1年生なるときに、変わるんかどうか。

それと、小学校、今、全部学校そうだけれども、中学校に魅力がないから、私学の中学校に行く生徒がわりとたくさんいます。そんな私学に行く中学校を目ざす子を今度の新しい新義務教育学校でその子らを何ほかでも取り戻せる自信っていうかね、その学校に対して、私学行くよりもうちの方が絶対いいっていうふうな特色をもっとはっきりと打ち出して引き止めて欲しいっていうのがありますが、その辺どうですか。

(樋口首席指導主事)

今現在の小中免許持っているそれぞれの学校の割合というのは申し訳ございません。現在、この時点で把握できてないんですけども。ただ、教員免許を取れるコースというのは大学の方でも時代に応じて、様々組織改革が行われておりまして、例えば大阪で小中の教員免許が取得できる大学といえば大阪教育大学が一番大きな大学になるんですけども、来年度から、小学校中学校の免許が取れるコースがこれまでは、小学校の免許だけ、中学校の免許だけ、または、小中高取れるっていうふうなコースとか様々あった。小中免許が取れるコースが全体に占める割合というのが50%ちょっと超えるぐらいになると伺っております。

【追加回答】

小中学校に在籍している教員8,323人（管理職・再任用教員除く）に占める両方の免許の保有者数は2,130人となっており、保有率は約25.6%となっております。（平成29年5月1日現在）

先ほど申し上げました開校当初につきましては、現在のそれぞれの学校にいる先生方を中心に構成していきます。その先生方が、転勤をされるタイミングで次に入ってくる先生を、小中免許の持った先生にということなので、段階的に進めていきたいと思っています。

あと学級担任制から小学校高学年になって教科担任制に変えていくのかというご質問なんですけども、この段階で必ずそうすることではありません。学校の実態として、そうした方がいいと考えられる場合に行うこともあります。

稀ですけども、実際、他の小学校でも中には、教科担任制をとっているところもあります。それは、学年の学級数が少なくなってきた1人の学級を1人で見るんじゃなくて、例えば5・6年の先生を解体して、国語・算数はこの先生とか、社会・理科はこの先生とか、複数教科で担当するっていうのは小学校にもあったりします。

ただ、義務教育学校におきましては、先ほども申しましたように、他校に比べてプラスアルファ加配も考えております。その加配の先生も加えて、より、子どもたちの学力向上にとって効果のある、そういった体制を組んでいくことが可能になるということなので、実際は子どもたちの実態、また、教職員の適切な配置といえますか、より効果の上がる配置されたものを作っていくっていうところまでは方向としては見えますけれども、具体的にどう

するかっていうのは先ほどお話のあったとおり、時の校長が判断していく内容になってくるかと思っております。

また、現在の中学校の状況ですね、私立に逃げていくというような話もございます。ご存知かどうか分かりませんが、今年度から生野中学校につきましては、校長裁量拡大特例校になっておりまして、校長の一定の予算でありますとか、また人事権につきましては、他校から比べますと格段の配慮がなされている状況です。それで、昨年度から今年度という部分においても、子どもたちの変化というのも明確に現れてきております。これはまだ始まったばかりでありますので、ご指摘の通り、「この中学校に進学させたくないわ」という学校から今後変えていくという決意で、私どもも学校と一体になって取り組んでいるところでありますので、その辺りは、見守っていただければというふうに思っております。

今回の義務教育学校もそういう決意で作っていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(質問者D)

そこを案でもいいから、こういう学校にしていくっていうのをみんなに言えへんかったら、そんなんなるんかならへんかわからへんっていうので、皆さんすごいそんな一貫校になったからって義務教育学校になったからって、どう変わるのかっていうのが多分はっきりわかっておりません。

義務教育学校にしたらこういうふうにしていきたい、なるかどうかからへんかもしれへんけどその案でこういうふうにしていききたいっていうふうに示してもらわんと、みんな納得多分できないと思います。加配にしてもやっぱり加配何名で、そんな10人も20人も加配になるわけないんですけど、やっぱり加配してもらったらやっぱりその分、目が行き届くとか、教科担任制の良さとかそんなんも、やっていく中で決まっていくと思うし、生野中学校は本当によくしてもらわんと、僕も卒業生なので、生中といたら格好悪いっていうイメージをなくしてほしいという。全然かっこ悪いとは思ってませんけど。

だからその辺でちょっとね、案でもええから、こういう学校にさせていただいてっていう。校長の裁量とかいうんじゃないくて、こういう学校にしたいから、義務教育学校をめざしてるっていうふうにしてもらった方がみんなわかりやすいと思います。

(井平地域活性化担当課長)

この学校整備計画案の案がいつ消えるのかっていうご質問でございます。

今回、この再編につきましては行政として、子どもたちの教育環境改善のために必要ということを進めております。

ただし、保護者の皆様、地域の皆様のご理解ご協力が大切ということもありまして、この学校整備計画案いろんなご意見をいただきながら、今回作成したところでございます。この学校整備計画案をもちまして、今後、学校設置協議会の中で様々な意見をいただきながら、必要な事項を決めていくことになります。

ですので、この学校整備計画案の中には設置協議会で決めていただくことと、あと教育委員会、生野区として、責任を持って取り組んでいくことも記載しております。ですからこの学校整備計画案の案が消えたものがどこかで出てくるということではございませんが、こ

の学校整備計画案に基づいてしっかりと新しい学校の設置に向けて進めていきます。実際には新しい学校の設置が決まったという段階では案が消えた段階になるという形で考えております。

(質問者A)

大阪府北部地震がありまして、6月18日7時58分だったということで、私、林寺の見守りをしているんですけども本当に怖かったです。登校中の子どもたちで、先生方がほとんど来ていただいたので、その混乱も少なかったんですけども。登校中の子どもたちは運動場に入って先生方が見守るという。ただし登校中の子どもたちがね、かなりいたので、このへんでは見守り隊も少し混乱した部分がありました。そういう点で、地域の校長先生も来ているんですけども、お願いしまして、学校の方と見守り隊の方と連絡会を持っていただきまして、連絡網をもっとしっかりしようというようなこと等、この前やっていたばかりなんですけども、本当に避難所としての小学校、それから先生方、これはやっぱり大事だということをつくづく感じました。

だから、学校つぶしてなくしてね、跡地どうするんだということではなくって、今本当に台風を含めて、あるいは平野川分水路の浸水問題も含めて、今の学校を避難所の小学校をもっと改善改修するのか、例えば、トイレの問題だとか、あるいは体育館の空調問題だとか様々な問題、それから、要援護者についてどここのところに確保するのか、こういうところをね、今はしっかりやるべきじゃないかと。民間だとかNPOが跡地を管理しますというような話で僕は決してない。子どもたちの命や、高齢者の命にかかわる問題だというふうに考えています。

それともう一つは、今、生野中学校区の準備会をやり、田島中学校は準備会ではなくって、田島中学校の将来を考える会ということでやってきて、それが閉会だということで説明会に至ったんですけども、生野中学校でも、廃校対象となる3校のうち、2校はこの準備会に参加していないものすごく不正常的な形でやられてきたという。それをもって閉会として、それで10月11日には学校開校時期、校名も決めるというような、学校設置協議会を設置するというのはね。本当に地域なり保護者の意見を聞いて進めているのかどうか。

この間かなり地域の連合町会長とかPTAのところから陳情書が出されましたけれども、議会のところでは保護者地域の合意なくして統廃合の事例はないんだと、田島中学校区や生野中学校区は予算も元に戻ることは認識しておるということを議会で報告されています。この間も5,500以上の合意なくして、学校の統廃合はないんだという陳情書も今出されたところです。

この前、9月20日に教育こども委員会があったんですけども、この中では、田島のところでも本当にそういうこれから設置協議会でやるという確認もできていないのになぜね、そういう設置会を持ってそれからやるんだということで、かなり厳しい区長に対しての質問が出ていました。

あともう一つだけですけども、減る減るというんですけども、議会では平成34年には200人子どもたちが増えるという問題だとか。それから、来年5月には、BRT。地下鉄事業延伸ならなかったんですけども、高速専用バスが、杭全大池橋間が10分に1本走ると

いうね、まち作りのいわゆるいい条件が出てきていますので、やっぱり今、避難所を含めてまちづくりをしっかり考えていくべきじゃないかなというふうに思っています。

(井平地域活性化担当課長)

ご意見ありがとうございます。

ただいまのご意見の中で、まず避難所の関係ですけれども、避難所につきましては、先ほどもお伝えしました通り、学校跡地につきましては、避難所として残しまして、しっかり管理をしていきます。当然、避難所となる前の学校のことにつきましては、教育委員会としてしっかりとトイレの件とか、体育館の件を言っておられましたが、それはしっかりと対応していきますが、跡地として残した避難所につきましては、現在も跡地活用につきまして、いろんな調査検討を進めておりますので、そこの検討も踏まえまして、しっかりと今後、持続的に維持・維持管理ができるような形で検討していきます。

先ほどもお伝えしましたが、今後、設置します跡地検討会議の中で、地域の皆様方のご意見も聞きながら、こういった形でやっていくのかということも踏まえてしっかりと進めていきたいと考えております。

これまで進めてきました、学校設置協議会準備会のご指摘のように、ご欠席されている地域もございます。そこに対しましては、引き続き、丁寧に説明しながら、今後、学校設置協議会に向けてご理解をいただけるように取り組んでいきます。今後、学校設置協議会に向けましては、改めて地域まちづくり協議会、PTAの方をお願いをしまして、しっかりと説明をした上で進めていきたいと考えております。

子どもの数ですけれども、議会の方で出ていました数につきましては、今、お住まいのお子様が全て小学校中学校に進学された場合の数字っていうことで出てたと思います。実際に小学校に行くまでに地域を移られて減るとか、推測しますと今数字の方も出しておりましたが大きく増えるような状況ではなく横ばいか減るような状況ということでございますので、この再編についてはしっかりと取り組んでいかないと考えております

後、BRTにつきましても、来年度中に検証実験が始まるっていうことで聞いております。

ただし、結果が出るのは、それから3年5年先っていうことになると思います。

行政としましては、今いる子どもたちのためにできるだけ早期にこの再編っていうのはやっていく必要があるということで考えておりますので、そういった状況もございますが、しっかりと再編の方は進めていきたいというふうに考えております。

(山口生野区長)

防災に関しましては本当にご懸念のことだと思います。必ずしも学校の教職員がいる時間帯に災害があるわけではありませんので、基本的には区の職員が避難所を開けに行く、地域と連携して開けに行くというのが基本になっております。

ちょうど台風もありましたので今はちょっと防災計画・地域防災計画と言われるものが各19連合ありますが、全てを見直し、震災も受けてですけれども見直しを図っております。

たまたまですけれども、明日のNHKニュースで、中川地域でハザードマップを区の職員と一緒に連携して見直している様子が放映されるというのは聞いているけれども、そういった取り組みしておりますので、また、地域の方のご不安な声でありますとか、そういった

ことは情報も協議しながら進めていかなければならないと思っています。まずは行政として、避難所として機能することは非常に大事なことだと思っています。第一条件です。どんな事業者が入ろうとも、どんな活用がされようともまずはそれを重視してやっていきたいと思っております。

そして子どもが増える増えないの話に関しましては、私からのお願いも含めて話をさせていただきます。

生野区では本当ずっとずっと子どもが減り続けています。一方で中央区でありますとか西区では増えています。最近、東成の方も増えてきたので、東成の増える内訳を区長さんに聞いたけど、東成区は単身の人が増えてるっていうような話で、子育て世代はさほど増えてないでありますとか、鶴見区もよく増えてると思って、マンションがたくさん建ってますので、どうですかって聞いたら、いわゆるもうピークは過ぎた感じがして幼少年人口が、1%2%減ってきてるというような話がありました。つまり全国的な少子化というのは本当に止まらない状況で今、都心回帰と言って近隣の自治体が住みにくくなったりでありますとか、保育所の整備とか、住民が少なければおのずと税金も入ってきません。税收も少なくなりますので、そういった流れもあって、高層マンションが建って通勤に便利である都心に回帰してきたというのが現在の状況です。

関東ではそれが別の形で武蔵小杉という町があるんですけども、そこに通勤の便はさほど悪くないので、たくさんのマンションが建って今インフラが追いつかない状態、つまり、例えば大きな震災とかがあったら、その高層マンションからももうエレベーターから降りられない人たちが出てくるであるとか駅の方ももうパンパンで人がこぼれそうであるとかそういったような状況になっています。

私としては個人的に都市設計、都市経営というものが間違った形になってるというのは、思ってまして、その中で生野区がどういう位置付け、なぜ増えないんだっていう話なんですけれども、これは戦争で焼けてないというのが最大の原因です。とにかく古い町が密集して残っているがためになかなか大きな土地が空きません。高層マンションが建つとか大きなファミリー向けマンションが建つ用地が空かないんです。これに関しましては、空き家対策をコツコツやっていく中で、戸建てに建て替える中で入ってきてくれる人が増えることを願っていますしそういう働きかけをしています。

1回そういったマンションのデベロッパーさんでありますとか宅建協会であるとかにも聞きに行ったけれども、生野区は、やっぱりマンション建ててもなかなか買ってもらえないっていうようなこのエリア、例えば環状線近くのエリアであれば別だけれども、かなり厳しいんだという話もされました。

結構落ち込んで帰ってきたけども、その中の原因の一つには、町のイメージというものもないわけではないんです。生野区では区民アンケートをとっています。生野区民の方にとっているにもかかわらず、60%ぐらいの人が、生野区が魅力ある街とは思いますがに対して、「余りそうでない」というような否定的なことを答えられるんです。どうしても昔のなんか治安の悪いイメージとか、中学校の窓ガラスが全部割れていたとかもそんな話を言う方とかもいて、私は、全然今は違うのに、こんなに治安も良くなっているし、少しずついろんなこと

を改善して住みやすい街なのに、そういうイメージがついていることを大変残念に思っています。

そこでシティプロモーションということにも今一生懸命取り組んで、まず広報紙を変えたりでありますとか子育て世代向けのアプローチも一生懸命やっているところです。ですので、まず皆さんにお願いしたのは皆さんのお子さんとか知り合いとかお孫さんとか、生野区に住んでいただいている方はすごくありがたいんですけども、帰ってこないっていうか、うちの子が住んでいないっていうのはよく聞くんです。それこそ、「どこどこの高層マンション住んでんねん」と聞くととても切なくなるのと、あと、かつて天王寺・阿倍野側に越境して入っていたことを自慢のように言う方とかもいらっしゃいます。それも、大変腹を立てています。私としては残念に思っているんです。そういうことの積み重ねが結局、生野区が選ばれない町になってきた原因の一つであります。

そして交通もちろんです。ですからBRT走ったら絶対乗ってください。たくさんの人が乗らないと続かないんです。実験なんです。あれはとにかく5年間乗って乗って乗りまくって、たくさんの人に乗ってもらわないと定着しないんです。もうそういったいろんなことがあってね、市バスの本数少ないこともね。去年まだ市バスだったときに交通局にお願いに行きました。本数増やしてくださいとこんなんじゃやってられませんかって言ったら、赤字路線何本走らしてると思ってるんですかと。生野区内の半分ぐらいが赤字ですよ。それでも維持してるんです。1本も減らさないって10年約束してます。だから、もうそれ以上のことを望まれても困りますと言われて、大変悲しく思ってまた帰ってきたんですけども。

私も、生野区がこの子育て世代に選ばれて、そして街の価値が上がって、次に住む人たちがいい町になって引き継げるような形にしたいと心から思っています。そのためにやっぱり今、学校入ったら一緒に入る子どもが10何人であるとか、クラス替えできないとか、そして、どんどん若い先生いっぱいになってきて、ちょっとしんどくなってくるとかじゃなくて、今いい学校を作るために話し合わなければならぬし、できれば決断をしなければならぬというふうに思っています。

長々になりましたけどまちづくりに関しては皆さんにもお願いしなアカンこといっぱいありますので、ぜひ近隣で空き家を持ってる方とかいたら、建てかえた方がいいよとか、相談を区役所にしいやと言っていたいただけると助かります。

以上です。

(質問者E)

学校が新しくなって、やっぱり教育に力入れていただけるとすごい助かるし嬉しいですけど、変な話、西生野小学校に統合することで、地域間の力のバランスが変わっちゃうんじゃないかなっていうちょっと気になって、私は生野小学校区なんですけど、その近くに家を買った人とかすごい残念っていうのを言ってまして、結局、家をすでに建てた人はやっぱり悔しい気持ちになるだろうし、小学校のPTAとか子ども会とかで、子どもがもう卒業して、でもまだかわってる祖父母世代の人とかが置いてけぼりになっちゃうんじゃないかなとか、結局、西生野そういう人たちだけで行事が進んで行くのかなあとか。なんか嬉しい反面、悲しい気持ちもあるっていうのが正直なところなんです。

(質問者D)

4小が合併するけども、それは全く同じで西生野小学校に統合になるからって言って、西生野小学校のPTAが盛んになるとかそんな全く関係なく、西生野小学校というのは、もう廃校になるから廃校になった時点でそのOBである僕らもOB会作ってますけど、林寺も舍利寺も生野も全部一緒やけども、そのOB会はその学校のOB会として残っていく。新しい学校は新しい学校で作っていくから、だからそんな西生野に統廃合されたから西生野が幅利かせたとかそんな全くないことやから、それは全然心配せんでいいと思います。

地域も全く一緒に、各連合というのが一緒になるわけではないから、林寺は林寺、西生野は西生野、生野は生野、舍利寺は舍利寺で連合は残っていくので、だから地域の活動は全く今までと同じです。それがただ、小学校が1校になるだけで、みんながいつに力を合わせれるからもっといいことができるかもしれへんっていうね。そこだけです。

だから西生野が幅利かせたそんな全くないです。廃校になった時点で僕らも元西生野小学校のPTAとか、PTAのOBとかいうことになるから、各学校一緒だと思います。

(井平地域活性化担当課長)

今、西生野の方からお話ありましたけれども、当然4小が一つに再編統合ということで4つの小学校が全て一つになるっていう形になります。地域の方は地域でそれぞれ活動もあると思いますけれども、当然学校の方は全ての地域の方と一緒に進めていかないといけませんので、学校中心と一緒に取り組むけども、教育委員会、生野区のほうも、同じように支援をしていきますので、そういったことは当然ないっていうことで思っていたければいいのかなと思います。

また、子どもたちの登下校に関しても、考えてますのは、今いきいき活動は、学校でやってるんですけども、活動自体は新たな学校でする形になりますけれども、その後ですね、指導員方で、元の小学校になるのかどちらか地域の方にちょっと集団で送っていくとか、そういったことも検討ができないのかなっていうことが併せて考えたりもしますので、そういったところも含めて今後皆様のご協力をいただきながら進めていけたらと思っております。

(質問者F)

先ほど私の質問の前に女性の方がご発言なさって、それに対して「質問者D」さんがコメントされましたけれども、それについてちょっと私なりに意見させてください。それからあと、質問をもう2点ございますので、引き続きさせていただきます。

女性の方がおっしゃったっていうのは私非常によくわかるんですよ。「質問者D」さんのおっしゃったことも正しいです。理屈上は正しいんですけども、それはね、やはり、その前におっしゃった方の女性の気持ちはやっぱり説得できていないと思います。

というのは私、西生野の1期生なんです。ご存知の通り、西生野小学校は、林寺小学校と勝山小学校の当時の1年生2年生、私その時2年生でしたけれども、新たに西生野小学校ができたという学校なんです。ですから、林寺小学校の校区の方は、なんで西生野小学校、名前変わりますよ、もちろん新しく再編成される学校ですから。それは西生野小学校でも何でもなく、「質問者D」さんがおっしゃるように、地域にできた新しい小学校になるんだけ

ども。やっぱり江戸時代に藩がなくなった、お城がなくなったことに対する郷土の方がどんな気持ちを持たれたかっていうことはやっぱりね、今の問題にも繋がってると思うんですよ。

そういうやっぱり学校っていうのはね、地域にとってはお城みたいなもんですから、それがなくなるっていうことはやっぱり物凄く寂しいっていうね、その気持ちをやっぱりわかってあげないといけないと思うし、行政の方もね、そこをどうそのフォローしてあげるかというのが、一番大事なことやと思ってるんですよ。ですから「質問者D」さんがおっしゃることが正しいんだけど、それは理屈の世界であって、これから新しく本当に新しい校区が地域全体の校区としてね、みんなが自分たちの新しいシンボルやと思えるようなまちづくり、先ほど区長が生野区のまちづくりに対するその熱い気持ちをね、語っていただいて、非常に私感激したんですけども、そういう発想はね、大事やと思います。

学校だけの問題ではないということをやっぱり認識してあげないといけないなというのが私のコメントです。

それで今日こういう説明会に出席いただいていたのが2回目なんですけども、本当に学校再編も大変なことで、こういうきめ細かい説明会をされてるっていうことに関しては敬意を表するんですけども、今日ご説明いただいた資料でちょっと教えていただきたいことが2点ほどありましたので質問させていただきたいんですが、区長がご説明された資料のスライドの7ページになるかと思うんですが、右下にスライド番号打ってますよね。標題が生野中学校区平成31年度の各校予定人数ということで、下の欄に1年2年から6年までの人数と学級数という数字がございますね。これ見たらだいたい1学級30人ぐらいっていう形になると思うんです。

私は基本的には、学校の先生方は最近大変だということを聞いてますしね、1学級の適正人数どれぐらいがいいのかなと、いうこともやっぱり非常に気になるんですよ。今までは20人弱ぐらいで先生と児童がね、まあそこそこに教育を受けられる教えられる関係になってきたのが、一気に30人になっちゃうと、これは多分、国の指導ということもあるんだと思うんですけども、本当にその30人という1学級の人数が適正かどうかっていうことについてのご見解を一つお聞きしたいなと。

教育っていうのは本当に難しく、何人が一番いいかということがあると思うし、区長も小規模のメリットデメリットをよく知ってますというふうに聞いておっしゃってましたけども、私もいろいろ教育について勉強してるんですけども、秋田県の東成瀬小学校ってありますよね。そこはもう本当学力日本一、秋田県はもともと日本一なんですけど、その中でも寺子屋のちょっと毛が入った小学校がね、日本一の学力を誇っていると全国から教育者がこられるということも、勉強してる中でね、本当に人数で、教育のよしあしが決まるかどうか。突き詰めるとやっぱり教育者の問題になると思うんだけどね、それはなかなか難しい話で、適正人数はどれぐらいかっていうことがやっぱり気になるんですよ。だから30人ということについては根拠、そのメリット、ちょっとそれを教えていただきたいなというのが一点。

それからすいません、もう一点はですね、区長の説明された資料の中でもね、勝山小学校の位置づけなんですね。

一つの提案として勝山小学校も、Bブロックの方の中学校の方についてという話もあったというふうに思うんだけど、先ほどから地域と学校の関係についてのお話で、勝山は昔から勝山中学校というところになってる小学校なんで、はなからこの新しい校区の中で議論されていたのかどうかかわからないけれども、私が地域から見てたらね、勝山小学校の南の方の地域の方はもういつも見守り隊の方が、延々と西生野小学校のそばを通っていかれるんですよ。ですから、もっと近くで安全な学校はあるのに、西生野に来られないのかなっていうのが本当に気になっているんですよ。

今回新しく学校再編成では、新しい中学校、勝山通を越えたところへ行かれるわけでしょう。そういうことになると、ますます通学距離が増えちゃうし、通学の安全という面でも気になるんで、こういう説明会を勝山小学校校区でもなさってると思うんだけど、新たにこちらの学校の方にね、行ったらだめですかっていうのはそういうご意見がなかったのかどうか。その点についてもちょっと教えていただきたいなということを一点です。

よろしくお願いします。

(樋口首席指導主事)

様々ご質問ありがとうございました。

一つの学級の児童数生徒数なんですけれども、これは国で基準が定められております。ですから、ある程度少ない方がいいなということで、20人ぐらいにしたいなと思ってもなかなかこれは簡単にはいかない制度になっております。

ちなみに2年生以上がですね、40人を超えますと、2学級目をつくるということになっております。1年生につきましては35人を超えた場合ですね、2学級目をつくるということになっています。

例えば105人という数字、先ほどもありました1年生105人、これは1学級どれぐらいかあるいは35で割ったら3クラス、ちょうど3クラスとなるわけですね。

これ4クラス目を作ろうと思っても、一つの基準としては難しいところがあります。

ただ大阪市の方針としてですね、2年生も35人を超えたら2学級目というふうな基準にしようじゃないかということで、これは大阪市が行っていることであります。

ですから、1・2年生が35人を超えた場合、3年生以上は40人を超えた場合、2学級ができると。教室数がいっぱいあるからとか学級に入っている子どもの数が多いからとか、という理由で学級数を学校が増やすことはできないということです。

例えば、3年生は40人で学級経営が難しいので、加配の先生を使って少人数化を図ろうじゃないかということで、例えば、授業の場面で、少人数化を図った授業展開をしていくということは可能になってきますので、そういう意味でも、加配をしていくっていうのは学校長としたら非常に経営が難しい学年の手厚い一つの方策に使えるということでありがたいなということは実感としてあります。

(井平地域活性化担当課長)

先ほど区長が申しました、勝山小学校の話ですけども、あくまで行政として、この西部地域の再編計画を検討するに当たって、考えた一つの例でございます。

実際には、やはり学校っていうのは教育の場でありまして、当然地域と密接な関係

があります。学校の校区と地域というのはかなり密接に関係していますので、地域校区を簡単に変更するということはなかなか難しいのかなというふうに考えております。

行政から、ここもこうしましょうとかそういう形はなかなか難しいので、地域の方からです。ねこういった形でやりましょうっていう意見をいただければ、その話は一緒に考えていけるかなと思ってます。

勝山小学校のところにつきましては、勝山中学校鶴橋中学校なんですけれども、今年の夏に同じように説明会をさせていただきまして、まずはですね中学校からやりましょうということで今中学校を行っておりますので、実際にその小学校の話がまだ進められておりません。ですので実際、勝山の方でどのように考えてあるかっていうのはしっかりとまだ確認できた状況ではございませんが、そのあたりは地域の方にはしっかりと話をしながら進めていきたいと考えております。

あとこの再編にかかわって、学校選択制っていうのは大阪市全市的に取り組んでいるが、生野区につきましては、西部地域学校再編を進めていることで、今学校選択制を導入していません。ただ、この西部地域の学校再編が完了した時点においては選択制というものを全てに導入していきたいというふうに考えておりますので、もし今の状況の形で再編された場合であっても、近いからこちらへ行きましょうとかいう形で選択制は入れていきたいと考えております。

(質問者G)

生野中学校校区は施設一体型になると思うんですけれども、先ほどありましたように、中学生と小学生と一緒にってということで繋がりから密になると思うんですけれども、いい面で言えば先ほどおっしゃられたように優しさや思いやりが中学生にできると、その逆の不安がありまして、例えばちょっと言葉は悪いですが、中学生が小学生をパシリに使ったりとか、いじめたりとかの不安。逆に小学生が中学生に対して憧れ、これが悪い面で、悪いことを早く覚えて真似するとかいうような不安も、保護者の方ではやっぱりあるんですね。その辺の防御策というような具体的なことをお考えでしょうか。

(樋口首席指導主事)

今ご指摘のように、今日お話をさせていただいた中ではない部分なんですけれども、小中一貫校のデメリット、具体的な一つとして挙げられてるのが、中学生の悪い影響はもうダイレクトに伝わるというものが挙げられています。

一方で、これまで設置してきた小中一貫校の中でも、当初、中学校が荒れていて、あそこの中学校とくつつくのは猛反対、というところから始まった地域もございました。いざ同居したら、もちろん小学生が中学校に来ていきなり荒れるかっていうとそうではありません。中学校に入ったときに、文化の違う小学生と出会っていったときに、どっちが上やねんみたいな、争いがあって、それで、力関係が形成されていくっていう段階がある場合があります。それが、小学校の段階から一緒になりますので、早い段階から違いを認めていくとか、また、中学生も小学生の前に立ったときに、例えば、髪の毛の色でいいのかとかいうふうなことを指摘されて、1人の子が髪の毛の色を変えて、その場に臨んだという具体的なエピソードも聞かせていただいたんですけれども。

どちらかという、小学生の前に出ることを、恥ずかしくないように頑張るというところを持っていて、荒れていた中学校と言われたところですけども、むしろそこが非常に大きな変化をなしたということで聞いておりますので、そういう意味では、今段階から、小学校どうしの交流でありますとか、小中の交流という形で計画的にやっていくことによって、互いの違いを認めていけるような集団作りをやっていきたいと考えております。

(質問者E)

2回目ですいません。

いろいろ学校に直接かかわるかどうかわからないんですけど、子どもの学力を伸ばして行って、最終的に子どもの学歴が上がればその学校の評価が上がって、転居される方が増えてっていう、なんかこうなったらいいなみたいなビジョンはあると思うんですけど、その中で、一方で、学力にこだわらない家庭の方もいらっしゃると思うんですよ。結構そういう人が、いや、ちゃんとやっぱり学校出て欲しいなって思ってる人の各家庭での考え方の差が大きいなというふうに生野で子育てしてて思ってたして、子どもに対してのアプローチは学校からできると思うんですけど、その保護者に対しての、もっと本読んだほうがいいですよとか、こういう勉強してたらいいことありますよっていうことあるんですかね。

(山口生野区長)

これは校長時代からずっと続く一大テーマでありまして、家庭の教育力というものだけに、もちろん頼れない時代でもあります。今かなり困難を抱えている家庭もある中で、またちょっとたまたま前の学校、私のいた学校は外国の保護者の方も多かったので、いろんな考え方や文化の違いもあり、また、日本はそういう状況にこれからどんどんなっていくと思います。

ただ、子どもたちが何か将来に根ざしたときに、底力というかですかね、学びたいと思ったときに学べる力を付けておくっていうことに関してはだれも異論はないと思うんですね。そのために、やっぱり人と繋がる力も必要ですし人に助けてもらうのも能力のうちですし、そういった中で、マナーでありますとか、当然しっかりした体作りのための食生活でありますとか、学校だけではカバーしきれない部分っていっぱいあります。

私がとりあえず区で何ができるかなと思ったときもその啓発は諦めない。でも、それ以外の家庭を支援する手立ても作らなければいけないというところで、区役所では新たな子どもの貧困対策とかそういういろんな枠組み使いながら努力もしています。

家庭の啓発に関してはですね、私が「いくみん子育て通信」という、就学前の保護者向けの文章を作って、あちこち置かせてもらったり、学校には小学校の校長先生に送らせてもらって、教育だよりというものにやっぱり親子で読める本の紹介とか、前向きな声かけしてあげてくださいとかそういったものは毎月出すようにやっているところです。

小さなことからね、やっていかないとはいけませんが、ぜひ多くの、なんていうかな、昔多分地域の方に怒られてね、そういう繋がりの中で育ててもらった方とか、例えばだんじりに乗ってる、上の人にいろいろ教えてもらったりとか怒られたりしもって大きくなったりとかいろんな場面でまちの教育力というのも試されていると思います。

小さなことですけども、これもお願いしていいですか、ついでに。実はね、最近大阪府

下で自転車事故一番多いのは、生野区やって言われたんです。結構ショックを受けてですね、やはり自転車マナーというのは子どもがまたその大人の姿を見て真似てしますので、みんな気つけなあかんということもまた啓発もせなあかんと思ってるんですけども、そういったみんなでの教育の課題大きな課題がある中で一緒に考えていただいたり声かけしあったり、そういう啓発は頑張っって続けていきたいと思っておりますので、ご意見本当にありがたく受け止めて、また、取り組ませていただきます。ありがとうございます。

(質問者F)

今後ですね、学校設置協議会で専門部会作られていろいろ議論をしていただくということなんだけど、特に私お願いしたいと思うのが、安全対策の通学路の問題なんです。やっぱりお子さんも学校、特に遠方からね、通学させる保護者の方、やっぱり一番それが心配事だと思うんです。

その中でですね、私いつも気になっているのが、疎開道路、豊里矢田線なんですけど、あそこを見ていただいたらわかると思いますけども、東住吉区の方は綺麗な歩道ができて、立派な道路になってるんですよ。ところが生野区に入った途端に、もう本当に子どもが歩いて大丈夫かなというような、もう本当にあの道路の体をなしてない道路なんです。あそこはもう事業そのものが凍結された街路事業だと聞いてますんで、早く建設局の方にね、区からですね、この再編成も含めてね、通学路の一番メイン道路にもなると思いますので、早く安全な道路整備してくださいというようなお願いをですね、働きかけてほしいと思うんです。

というのは、学校設置協議会で3年ぐらいで議論されるということなんだけど、ああいいう道路整備しようと思ったら、やっぱり予算確保から設計から見ただけでもやっぱり3年ぐらいかかっちゃうんですよ。そういう後手後手じゃなくてね、やっぱり、まちづくりの一環として、メイン道路を我々の地域にとってもメイン道路ですから、学校の安全の問題もあるし、地域の安全の問題でもあるわけですから、区役所が率先してですね、道路整備をやっぱり図っていただくというような主体的な取り組みも必要だと思いますんで、それは私の方からのお願いとして申し上げたいと思います。

(大川学校適正配置担当課長)

通学の安全対策、豊里矢田線、疎開道路の話もございましたけれども、今回の整備計画案に新たな通学路の案、もしくは安全対策案はつけさせていただいております。この安全対策の案だけではなくて、今後しっかり皆さんのご意見をちょうだいしながら、できる限りの対策を話出ました建設局、道路の管理者ですけども、あと警察ですとか、そういったところにしっかり協力要請していきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

あと、豊里矢田線の関係、街路事業計画としては全部ありますけれども、今年度からですね一番南の方から事業着手決定されたと聞いています。ただ、まだまだ南の方ですけども、その辺区としてもしっかりと安全対策を含めた要望いうのを上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【訂正回答】

下線部について、担当部署に確認したところ、事実誤認がありましたので訂正します。正しくは「南のエリアについては近いうちに事業着手の予定」です。

(質問者F)

あそこは区画計画があつて、用地買収しないと事業着手できないんですよ。でも、用地買収は凍結されているので、現在の幅員でそのままの状態で置かれますから、南側だけではなくて、現在の幅員で通学路の安全上必要な、十分歩道を確保していただくよう、行政上してくださいというお願いです。

(山口生野区長)

本日はお忙しい中様々なまたご意見ありがとうございました。あと、こういった場ではちょっと発言しにくいでありますとか聴きたかったけど聞けなかったということありましたら、区役所の方に直接お問い合わせ、実際、割りと子育て世代の方からは区役所への問い合わせは多いです。

また、後ほど紹介しますが出前講座も行きますので、ぜひお問い合わせいただければと思います。

本日は、いろいろとご意見いただきまして本当にありがとうございました。